

原産地は、アンデスの高原地帯。日当たりと排水性のよい場所を好む。ナス科植物
夏野菜の代表的な野菜で高温を好む野菜です。家庭菜園では、4~5月に定植、7~10月まで収穫可能。
大玉、中玉、ミニと品種がある。

栽培ポイント

連作障害防止の為、5~6年程度ナス科野菜を栽培していない場所を選択する。
接木苗を使用するのも有効な対策。
元肥は控えて追肥をしっかりやる。脇芽は生育に影響するので取り除く。

栽培カレンダー (収穫まで約70~80日)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般地			○		△△		□	—	—	□		
		○ 播種		△ 定植			□ 収穫					

栽培手順

1.種まき

- ・ポットに育苗用土を入れ直接種をまく。(3~4号のポットがよい)
- ・2~3粒まき、覆土をする。鉢上げ時期は本葉が2枚のころがよい。
- ・発芽温度は28℃必要。

2.土づくり

- ・定植の2週間前には苦土石灰を全面散布して耕しておく。
- 1週間前には、堆肥、化成、苦土重焼燐を畝全体に散布して耕しておく。
- ・畝は、高さ20cm、幅120cm

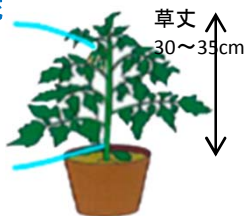
元肥	完熟堆肥		300kg
	苦土石灰		12kg
	苦土重焼燐	0-35-0	8kg
	化成	8-8-8	16kg
追肥	燐硝安加里	16-10-14	3kg
施肥例 (100m ²)			

3.定植

- ・第1花が咲いているものがよい。
- ・市販の苗は第1花の開花が始まっているものを選ぶ。

1段花房の花が蕾
~咲き始め(第1花
房節位は本葉7~
8枚ぐらい)

茎の太さはエン
ピツより少し細
めで8mmぐら
い



定植適期苗の姿

(参考:タキイ種苗)

一番花が咲き始めた頃が定植適期
です。若苗だと吸肥力が強くなり、樹
ボケして落花や石灰欠乏症につな
がりやすく、老化苗だと樹が弱くなり後
半、果実の肥大が悪くなります。

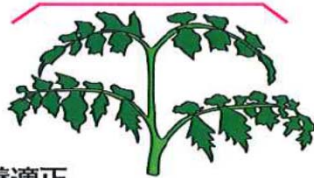
4.追肥

- ・第1花房がピンポン玉程度になったところに1回目の追肥をやる。
- ・2回目の追肥は草勢の状態をみながらやる。

1回目の追肥は3段花房の開花時が目安で 生長点付近の状態を見て判断します

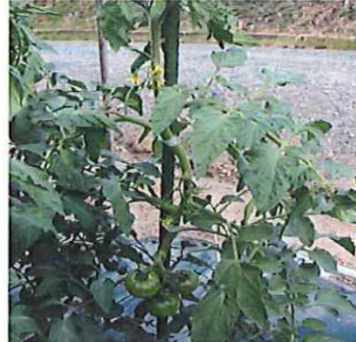
生長点付近の本葉が内側に巻き込まなくなり、主茎が細くなりかけてきている状態のころが、追肥のタイミング。その時期が分からない場合は、試し水としてやや多めの灌水をしてみます。2日後に草勢が強くなってこなければ、急いで追肥を始める必要があります。

順調に生育している状態



栄養適正
(追肥時期)

茎の太さが1～1.2cm、葉はお皿を伏せた程度の曲がり具合。葉色が濃く、毛もよく伸び、みずみずしく感じる



3段開花時期

(参考:タキイ種苗)

5.摘果

- ・1つの花房に果実をつけすぎると草勢が弱る原因になるので、4～5個が理想で多い場合は摘果する。

適切な栄養生長を示している場合は、果実が500円玉～ゴルフボール大の時に3果にしましょう。1・2段は3果/果房。それ以降は4果/果房が基本になります。



(参考:タキイ種苗)



(参考:タキイ種苗)

6.収穫

- ・果実全体が着色していて完熟したのから収穫する。